



新年増大号

山側道路から望む朝日

CONTENTS

- | | |
|----------------------------|--|
| ■年頭所感 2~9 | ■常議員会/商工会議所の動き 22 |
| ■紙上名刺交換 10~16 | ■会議所インフォメーション 23 |
| ■新年名刺交換会 17 | ■ベストセラー/漢字パズル
流行から見えるもの/言葉の力 24 |
| ■新春特集：7 部会長座談会 18~21 | ■協賛広告 25~34 |



発行所 ●日立商工会議所 〒317-0073 日立市幸町1-21-2 発行人 ●田山忍

購読料 ●200円 (購読料は会費の中に含まれています)

TEL 0294-22-0128 FAX 0294-22-0120 ホームページ <http://www.hitachicci.or.jp/>



変化をチャンスに



日立商工会議所会頭 秋山 光 伯

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

会員事業所の皆様には、平素より日立商工会議所運営全般にわたり、温かいご支援ご協力をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

さて、私は、昨年11月の臨時議員総会におきまして、会頭に再任されました。誠に身に余る光栄と存じます

とともに、改めまして責任の重大さを痛感しているところ です。会員皆様のご支援をいただきながら、初心を忘れず真摯に事業を進めてまいる所存でありますので、ご支援ご協力を賜わりますようよろしくお願い申し上げます。

今回二期目の会頭就任に

あたり、前期を顧みますと、会頭就任早々に東日本大震災に見舞われ、まさに震災からの復旧・復興に向き合った三年間でした。会員企業の事業継続を最優先に制度金融やグループ補助金に対する支援とともに、街の賑わいづくりにも取り組

みしました。また、地元行政や茨城県商工会議所連合会などと連携し、震災復興支援をはじめ地域経済活性化に対する支援要望を行うなど、決して充分でありませ

ませんでした。ある程度の成果が出せたものと考えております。今期につきましては、震災の影響がいまなお残り、復興に向けた粘り強い取り組みが必要なことは言を待ちませんが、同時に商工会議所本来の姿を、早く取り戻さなければならぬと感じているところです。新体制のもと、地域の総合経済団体としてのリーダーシップを発揮し、経済課題等の解決と企業の成長を支援し

てまいりたいと存じます。

地域経済は、少子高齢化や経済のグローバル化による競争の激化するなかで、消費税増税をはじめ、大手企業の統合等の動向から、受注や雇用に対する先行きの不透明感を強めており、依然として厳しいものと認識しております。

こうしたなか、会員事業所におかれましては、新分野への進出や海外展開、付加価値の高い商品や製品、或いは新サービスの提供など経営革新に果敢にチャレンジいただきたいと思います。

当所といたしましては、地域経済を支えておられる中小企業の皆様が元気に活動できるような環境づくりを進め、中小・小規模企業の成長・発展へむけた経営強化と、地域経済の活性化に努めてまいります。

このため、会員事業所の皆様方を積極的に訪問させていただき、経営上の課題

を伺い、その解決に役立つ事業に取り組んでまいります。特に、金融や、消費税の価格転嫁の対応を含めた税務など、経営の基礎的な部分への支援を強化してまいりたいと考えておりますので、商工会議所を大いに活用いただきたいと思います。また、技術や研究開発など専門性の高い分野の経営相談等につきましては、専門家と連携を図りながらサポートしてまいります。

地域の振興につきましては、商工会議所の基本組織である部会や委員会の事業を中心に、地域の多様な資源を活かしつつ、企業や業界、行政との連携を強化し取り組みます。

まず、振興の基礎となりますまちづくりに関しましては、これまで以上に危機感をもって取り組まなければならないと感じているところと、街の顔となる中心市街地や駅周辺の活性化

では、地区ごとに商店会の方々との懇談会を継続するほか、業界若手による勉強会を立ち上げるなど、多方面から活性化の方向を探ってまいります。また、暮らしやすいまちを念頭に、道路や公共交通、住環境の整備はじめ、地域ブランドの創出や観光振興さらには教育等について、行政への要望や、市の各種委員会等において意見具申して実現を目指すとともに、年間を通じた各種にぎわいづくり事業を実践してまいります。

一方、産業の振興として、ものづくりの分野では産業支援機関や産学官金の連携を一層推進し、販路開拓はじめ新製品や新技術の開発のほか、成長産業への進出等を積極的に支援してまいります。また、部会および業界等における課題研究や情報提供事業などへの支援や、委員会の相互交流事業等の開催を通じ、新しい連

携や共同研究・事業等への取り組みを促し、地域産業の活力を高めたてまいりたいと考えております。

現在、地域経済は大企業の統合等で大きな転換点にあると認識しております。とりわけ、火力発電システム事業における日立製作所と三菱重工業による統合会社設立は、地域に大きな影響を及ぼすものと存じますが、地域産業に活力と新風をもたらしものとして、大いに期待しているところで

す。新会社には是非とも両社の技術や幅広い製品を活かして、同分野のリーディングカンパニーを目指していただきたいと思います。

そのなかで私も地域の中小企業がともに成長していくことができれば何よりと考えているところです。もとより、地域企業においては国内さらには海外企業との厳しい競争にさらされており、自らの変革が必要

となりますが、当所といたしましては、当地企業が有する技術や集積を新会社へ積極的にアピールしてまいりたいと考えております。

地域経済は、なお厳しい時期が続くものと予想されますが、各業界ともにこれまでも幾多の困難を克服し、地域の産業や雇用を守ってまいりました。各種経済対策やアベノミクス効果の中、小企業や地方経済への早期浸透を期待しつつ、より重要なことは、個々の企業や地域が経済再生への思いを強めることであり、実行力であると存じます。会員事業所の皆様には、変化への対応が一段と難しい状況にあります。これらの変化をチャンスとして、更なる飛躍を図っていただきたいと思います。

結びに、会員各位並びに関係者皆様の益々のご繁栄を祈念し、年頭のご挨拶といたします。



年頭所感

明けましておめでとうございます。

日本商工会議所会頭に就任して

初めて新年を迎えました。

「日本再出発の礎」を築く

私は、昨年11月の会頭就任時に「新たな日本再出発の礎を築く」とした所信を表明し、絶えざる進化により、さらなる飛躍に向けて全力を尽くすことを会員の皆様に誓いました。新たな再出発を果たして成長を実現していくため、「わが国の強みと潜在力の再認識

とその発揮」、「民間の自助努力」、「成長につながる国際化」の3つの視点を踏ま

えた上で、「現場主義」と「双方向主義」を基本行動として、商工会議所の運営に取り組んでまいります。

民主導で「成長戦略」実行

さて、昨年は、アベノミクスによりデフレ脱却の絶



日本再出発へ、力強い一歩を

日本商工会議所 会頭 三村 明夫

好の機会を得ることができ、2020年のオリンピック・パラリンピックの東京開催も決まったことから、将来に希望を持つことができた年でした。今年はデフレ脱却と経済再生の道筋を確実にするための正念場の年となります。デフレマインドから脱却し、自信を持つて前向きな行動マインドに転換する、いわば「国のリセット」の年と言えます。

その成否を握るのは「成長戦略」であり、その実行

の主役は民間企業、特にその大宗を占める中小企業です。海外経済の緩やかな持ち直しや円高修正などにより、大企業を中心に業績の回復がみられ、各種経済指標も好転傾向にあります。中小企業の景況感は、原材料費や人件費の上昇を価格に転嫁できていないなどの理由により、依然としてまだ模様と言わざるを得ない状況です。わが国の成長を確かなものとするためには、日本経済の基盤を支える中小企業全体の底上げを

実現する必要があります。そのためには、まずはわれわれ自身が、日本経済を支える主体としての気概と自信を持ち、自助努力を重ねることが大事です。多くの中小企業は、独創的なアイデアや創意工夫を持って、限られた経営資源を最大活用し、成長を図っています。知恵を絞りに絞って課題解決を図っている好事例は貴重な財産ですので、商工会議所が中心となつて、広く横展開を図ってまいります。一方、消費税率の引き上げ

による価格転嫁の問題など、自らの力だけではどうしても解決できない構造的な課題に直面している企業も数多く存在します。こうした課題の解決策については、現場と丹念に対話を重ねること、政策提言にまとめ、政府等に積極的に発信してまいります。特に、4月に予定されている消費税率引き上げに関しては、中小企業の円滑な価格転嫁が進むよう、政府と協力しながら万全の対策を進めてまいります。

「日本再出発」に向けた重点課題への取り組み

今年で東日本大震災から3年が経ち、被災地では被災企業が事業再開を果たすなど、徐々に進んでいます。復興への歩みが進んでお

ります。今年も全国514商工会議所の皆様の力を結集して被災地支援を継続します。1日も早い本格復興に繋げるため全力を挙げていきたいと思います。

また、「エネルギー政策」、「経済連携協定の着実な推進と強い農林水産業の創出」の同時達成、「社会保障制度の再構築」など国の将来を左右する重要課題に対しては、127万会員の力を結集して、積極的な政策提言を続けてまいります。2020年のオリンピック・パラリンピック開催は、東京だけでなく、各地域においても、自身の成長を実現できるまたとないチャンスです。地域活性化の中核的な担い手である商工会議所が主導して、観光資源や文化、歴史をうまく活用し、

独創性にあふれる多くの取り組みを生み出すことで、地域の再生につなげていきたいと思います。

「地域の発展」「日本の発展」のために

私たち商工会議所は、「会員企業の発展」、「地域の発展」、「日本の発展」の3つのミッションを持っています。そしてこの3つが同一方向を向いていることが極めて重要です。

私は、会頭に就任後すぐに、全国9ブロックの主要商工会議所を訪問してまいりました。

行政と緊密に連携を図り、中長期のビジョンを明確化している会議所、規制改革を活用し、地域の競争力強化の先頭に立っている会議所、少子化問題や過疎化対

策等、難問に正面から向き合い解決を図ろうとしている会議所など、まさに地域の発展、日本の発展のため、多大な努力を日々実践している現場を目の当たりにしました。大変力強く感じるとともに、こうした活動をより深化させていかなくてはならないという思いを新たにしました。地域における商工会議所のリーダーシップを発揮し、地域の成長を強力に進めてまいります。本年が、日本再出発に向けた力強い一歩を踏み出す年となりますよう、皆様の一層のご支援とご協力を心からお願い申し上げます。



今年は午年



馬は人間と意思のかような家畜として、昔から親しまれてきました。でも最近、馬を見かけることが少なくなりました。

人類が馬を家畜として飼い始めたのは、牛よりも遅く、紀元前四千年ごろと推定されています。そして今日まで、運搬用、農耕用、乗馬用はもちろん、戦争や狩猟にも馬は登場します。

こうした馬と人間との密接な関係を反映して、馬についての諺や漢字が豊富です。「ハミかねば馬術なし」とか、「人間万事塞翁が馬」などがそうです。また、駅、駐車場などは現代でも重要な交通用語です。かつて、馬が活躍した時代がしのべれます。

また、午に関する言葉に正午がありますが、これは午が12時を表現する字であったので、これが現在も残り、午前と午後は正午を挟む事で区別されるようになりました。

さて、今年は馬力アップして大いに頑張りますか、それとも馬耳東風・マイペースでのんびりいきますか。いずれにしても、ウマく乗り切りたいものです。



日立市長 吉成 明

輝かしい2014年の新春を皆様とともに

迎えることができましたことを、

心からお喜び申し上げます。

日頃から、秋山会頭はじめ、会議所会員の皆様には、市政各般にわたり温かい御支援、御協力をいただいております。厚くお礼申し上げます。

昨年は、新たな都市像である生活未来都市・ひたちの実現を目指した総合計画の2年目であるとともに、震災復興計画の最終年でもありました。

そのような中、山側道路

の全区間供用開始（石名坂から多賀間）やひたちBRTの開通（久慈地区から大甕駅間）、南部図書館の開館や日立市民会館の再開など、市民生活に身近な公共インフラが完成し、復興への歩みを進めることができました。

昨今、人口減少時代への突入や少子高齢化の進行、

長引く景気の低迷といった

社会情勢の変化が、内需の縮小、企業の海外展開、統合などを加速させる要因となっておりませんが、このよう

な状況の中だからこそ、今は、市内の企業が思う存分に活動できる環境を提供して再投資を促し、本市の

産業集積の力を維持、継続させるとともに、新たな企業立地を促進し、産業集積

に厚みと柔軟さを加えていくことにより、ものづくりのまちとしての特性を進展させたいと考えています。

本市としまして、2年目を迎える日立市商工振興計画、日立市水産振興計画、第2次日立市観光物産振興

計画の各種施策を推進する

とともに、産業活性化や市民生活の利便性向上に欠かせない幹線道路や港湾、公共交通などの整備を進め、

都市機能の強化を図り、更なる産業の活性化や交流人口の拡大に向けた取組を進めてまいります。

本年は、日立市と十王町が合併して10周年を迎えます。

本市は、歴史とともに育まれてきた地域住民の力と、

他地域から本市に入ってきた企業の力とのコラボレーションによってまちが発展してきました。これを茨城大学名誉教授である瀬谷義彦先生が「日立力」と名付

けられました。

この力を礎として、今後、ものづくりのまちとして、本市の長い歴史とその特性を活かしながら、先人

たちにより築かれた「日立力」を次世代へつなぎ、誰もが生き生きと暮らせるまちづくりを進めてまいります。

ので、日立商工会議所会員の皆様におかれましては、引き続き、御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、日立商工会議所のますますの御発展と、本年が会員の皆様方の御家族共々、実り多い明るい一年でありますことを心からお祈り申し上げます。

結びに、日立商工会議所のますますの御発展と、本年が会員の皆様方の御家族共々、実り多い明るい一年でありますことを心からお祈り申し上げます。



平成二十六年の新春を迎え、
謹んでお喜び申し上げます。

平成二十六年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

商工会議所会員事業所の皆様におかれましても、健やかに新春をお迎えのことと思います。

平素より日立商工会議所の皆様には、商工会運営全般にわたり、ご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。新春にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

我が国の経済は最悪期を脱し、アベノミクス効果な

どにより、大手企業には今期最高の利益を出しているところもあります。しかしながら、中小企業はいかがでしょうか。経営環境は引き続き極めて厳しい状況のまま推移し、経営の悪化になかなか歯止めがかからない事業所が多いように感じます。

また、税制改正に伴い、消費税が本年四月に8%、来年十月には10%と段階的に引き上げられることが決定されており、中小企業を



合併十周年にあたり

日立市十王商工会 会長 和田 芳信

取り巻く経営環境は益々厳しくなることが予想されます。

そのような中、商工会といたしましても、この厳しい状況から脱却するため原点に立ち返り、企業のための経営支援や、地域経済の活性化に貢献できる体制を構築することが急務となっております。商工会はここ数年「行きます・聞きます・提案します」を全国統一のキャッチフレーズとして掲げ、会員満足向上運動を行って参りました。会員の為の身近な商工会として、地域振興事業や各種事業など、地域の活性化につながる事業を今年も引き続き展開してまいります。

また、当商工会では、ポポー（果実）を使ったワインやソフトクリーム、最北端のみかんを使ったジュースなどの特産品開発にも力を入れております。日立ブランドとして定着しつつあるこれらの商品の知名度をさらに高めるためにも、商工会議所の会員の皆様や地域の皆様と連携を図りながら、県内外に情報を発信して、活気ある街づくりに貢献できるよう頑張っております。

最後になりましたが、合併十周年の節目である本年が、皆様にとって良い年になりますことをご祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



感所頭年頭会副

副会頭 岩田 秀邦



新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、平素より商工会議所運営につきまして、ご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。

昨年は、国内経済としては、アベノミクス効果による景気の上昇への期待が高まってきております。しかし、地方経済は、未だに東日本大震災、原発事故の影響等もあり、鈍くなっているのが、現状であります。また、昨年、2020年のオリンピック開催地として、東京都に決定いたしました。これは、今後の経済波及効果等を考えますと、非常に明るい材料であります。昨年は、当所の商業関連事業として、ひたち国際大道芸への支援、市内各商店会イベントへの補助により、

賑わいづくりに協力をさせていただきました。そして、新規事業として、日立・多賀・南部地区の商業関係者との懇談会等を開催し、地区それぞれの現状や課題を基に情報交換を行い、商工会議所への要望事項等をお聞きいたしました。これは、今後

も開催していく予定であります。この事業の目的としては、皆様方からのそうしたご意見をいただき、今後の事業運営に反映させるものと考えております。

商工会議所が持つ広いネットワークを生かし会員の力となり、地域の活力を引き出す日立商工会議所である様活動していきたいと思っております。

国内経済は、まだまだ先行き不透明感が続いている状況ではありますが、本年も会員の皆様方にとって良い年でありますようご祈念申しあげ、新年のご挨拶とさせていただきます。

副会頭 友部 英一



平成26年の新年をむかえ、会員の皆様には謹んでお喜びを申し上げます。

また、日頃から、当所事業運営につきまして、絶大なご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は「震災」「復興」というキーワードから派生した、この地域の企業活力を生み出すため、日立市との強力な連携による各種要望活動、グループ補助金事業から組織された4つの自主研究グループの運営支援、「強い中小企業」を目指すための連携活動として取組んだ茨城大学工学部学生のインターンシップや優秀なものづくり人材獲得のための連携協議を開始するなど、新たな動きとともに事業を進めてまいりました。

た。

年末には当地域の主力産業の一つでもある火力発電システム事業の統合会社設立の概要が発表となり、日立地区に新たな風が吹きはじめ、地域産業に変化が訪れるものと考えています。

今年の干支は「午」です。様々な環境変化により、スピード感のある1年が我々を迎えているような予感がいたします。その変化をチャンスに変換し、着実な事業を推進することが商工会議所の活動テーマだと認識を新たにしているところでございます。

是非、会員の皆様には、企業個々の活性化に向けた自社の経営資源発掘と存分な活用、地域の動静を見ながらの経営に心がけていただくとともに、会員間の強い連携意識を念頭に、新しい年の更なる飛躍をご期待申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。